

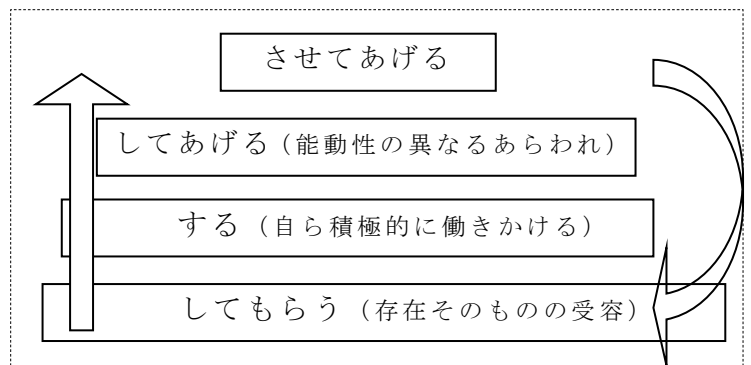


暮らしに主体的に関わる当番活動

園長 多比良 由恵

12月を迎え、冷たい北風や白い息が冬の訪れを告げてます。先月は、青柳小学校の「青柳コンサート」や音羽中学校の「学習発表会」に伺い、小学生や中学生の素晴らしい歌声を聞かせていただく機会に恵まれました。小学生が気持ちを込めてきれいな声で歌う姿や、中学生が指揮者（同じ学級の生徒さんが指揮をされてました）をよく見て皆で心を合わせる迫力ある歌声など、音楽のもつ心を揺さぶる力強さに感動しました。

さて先日、研修会で聖心女子大学 河邊貴子先生のお話を伺う機会がありました。「よく遊び、よく学ぶ共同体を創るには」というお話の中で、主体性の4つのかたち（北海道大学 川田学先生）についてのご紹介がありました。主体性には、右の図の様な4つのかたちがあるそうです。



〈主体性の4つのかたち 川田 2019〉

このお話を伺って、このような姿は幼稚園での子どもたちの遊びや生活の様々な場面で見られることを思いました。

4歳児もも組の子どもたちは、2学期後半からお弁当のやかん当番を始めました。もも組の子どもたちは、普段から5歳児ゆり組の子どもたちがやかん当番を毎日行っている姿を見ています。それまでは、先生が職員室にやかんを取りに来て、子どもたちは先生にお茶を入れてもらっていました。

はじめは、数名の子どもたちが先生と一緒に職員室に来て、挨拶の仕方やお茶をこぼさないようにやかんを運ぶ方法を教わっていました。毎日、順番に皆がやり方を教わり行っていくうちに、子どもたちは当番が日に日に上手になってきました。（保育室では、お茶を友達に入れてあげる仕事もしています）

しばらくすると、一人でやかんを取りに来たり、返しにきたりするようになりました。でも一人の時は、職員室に入って「なんて言うんだったっけ？」と不安になる子どももいます。そんな時、一緒になったゆり組さんが「失礼します。やかんを取りに来ました、って言えばいいんだよ」と優しく教えてくれます。教えてもらった子は、安心した様子で挨拶をして、やかんを運んでいきました。

子どもたちは、一人一人がのびのびと遊びを楽しんだり、当番活動をしたりしながら、幼稚園での暮らしを主体的に過ごしています。ご家庭でも、おうちの方と一緒に料理や掃除をしたり、一人でできるお手伝いをしたりしながら、一年の締めくくりができるといいですね。



もも組
やかん当番



ゆり組
もるのすけ当番